

速報

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

負担は限界



突如浮上した普天間飛行場の嘉手納統合案の撤回を求めて集会に駆けつけた町民ら
＝12日午後、嘉手納町の道の駅かてな

嘉手納統合案NO

住民集会で撤回訴え

【嘉手納】嘉手納統合案粉碎を目指す住民集会(同実行委員会主催)が12日午後、嘉手納町の道の駅かてなで開かれた。大会では、米軍普天間飛行場の嘉手納統合案の撤回や負担軽減の実現、普天間飛行場の県外・国外移設などを求める四つのスローガンと決議文を採択。米軍機からの騒音や排ガスなど基地被害に苦しむ住民が、再浮上した嘉手納統合案に「NO」を突き付けた。

実行委員会は町議会、町基地対策協議会、自治会長会の3者で構成し、田崎博美町議会議長が委員長を務める。大会では主催団体に加え町婦人会や町老人クラブの代表らが決意を表明した。大会前には、中部地区町村議会議長会を通して近隣市町村からの参加も呼び掛けている。

大会決議は、町議会議員を中心とする代表団が上京し、21日開催予定の日米安全保障協議委員会(2プラス2)を前に日本政府へ直接手渡す。

嘉手納統合案が浮上するのは3度目。今回は米上院軍事委員会のカール・レビン委員長らが普天間飛行場の名護市辺野古への移設を「非現実的」とし、嘉手納基地への統合を新たな案として米国防総省に提示したことを発端に浮上した。



嘉手納統合案の経過

1996年	橋本一モデル会議でヘリ部隊の嘉手納移設を条件に普天間飛行場の全面返還を合意
4月12日	嘉手納移設に反対する嘉手納町民らが町民大会を開催
4月20日	普天間飛行場の代替ヘリポート建設について、政府が嘉手納基地への統合案を再検討
7月4日	政府が代替ヘリポートについて嘉手納基地の滑走路を共有するよう米側に提案
7月31日	キャンベル米国防副次官補が嘉手納基地への統合案を拒否
8月1日	嘉手納基地へのヘリポート統合案について米側が難色を示す
8月2日	「ヘリポート移設反対北谷町民大会」が桑江総合運動場で開かれる
8月7日	嘉手納町で「嘉手納飛行場への移設反対町民協議会」が発足
8月22日	在日米軍など一部が嘉手納統合案について「受け入れ可能」との見解を伝える
9月7日	「嘉手納飛行場へのヘリポート移設反対沖縄市、北谷町、嘉手納町三者連絡協議会」(三連協)が発足
9月16日	代替ヘリポート施設について政府が設置場所をキャンプ・シュワブ水域にする方針を固める
11月14日	日米両政府が代替ヘリポート設置場所をキャンプ・シュワブ水域で基本合意
11月22日	下地幹郎衆院議員が普天間飛行場の嘉手納基地統合を提言する報告書をまとめる
2002年	三連協が嘉手納統合案に反対する声明を発表
6月11日	岡田克也外相(当時)が記者会見で普天間飛行場の嘉手納統合案について言及
2003年	「米軍普天間飛行場の嘉手納統合案に反対する町民大会」に、約2500人の町民が参加
6月9日	岡田外相が来県し、嘉手納統合案について三連協と面談
2009年	岡田外相が嘉手納統合案を断念する意向を示唆
10月23日	
11月7日	
11月16日	
12月5日	

嘉手納基地関連の主な重大事故

1959年6月	旧石川市の宮森小学校にF100戦闘機が墜落。17人死亡、重軽傷者210人
1962年12月	嘉手納町屋良の民家にボーイングKB50型空中給油機が墜落。2人死亡。重軽傷者8人
1966年5月	嘉手納所属のKC135空中給油機が県道74号線に墜落。1人死亡
1967年10月	基地内の燃料が流出し嘉手納町内の井戸水が燃える事故が発生
1968年11月	B52核戦略爆撃機が基地内に墜落。重軽傷者16人
1974年9月	C130輸送機が離陸失敗で嘉手納飛行場内に墜落、乗員2人負傷
1977年11月	嘉手納所属F4ファントムが伊江島沖で墜落、乗員2人が行方不明
1982年12月	F15戦闘機2機が空中戦闘訓練中、本島北東の海上に墜落、1人死亡
1989年3月	嘉手納所属のHH3ヘリコプターが伊江島南方18キロの訓練空域外で訓練中海上に墜落、3人死亡、2人救助
1994年4月	嘉手納を離陸したF15が嘉手納弾薬庫地区内の黙認耕作地に墜落、炎上
1999年6月	海兵隊所属AV8ハリヤーが嘉手納を離陸した後、火を吹き墜落
2006年8月	嘉手納、北谷両町の境界線付近の米陸軍貯油施設に嘉手納所属のF15が訓練用照明弾(フレア)を誤射
2008年10月	嘉手納エアロクラブ所属のセスナ機C172型が名護市真喜屋のサトウキビ畑に墜落
2011年3月	嘉手納を離陸したAV8Bハリヤーが嘉手納弾薬庫上空で訓練用照明弾(フレア)を誤射

深夜早朝の爆音激化

嘉手納基地 外来機飛来も増加

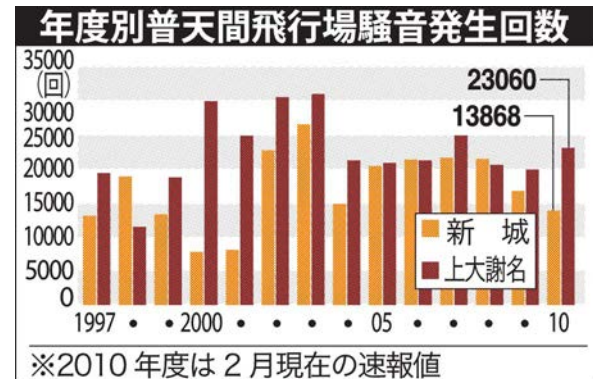
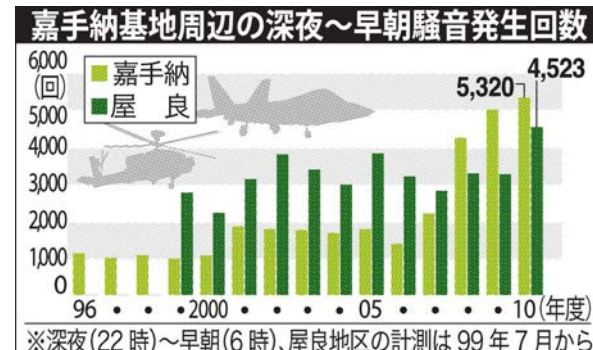
嘉手納基地は米空軍第18航空団を中心に海軍や陸軍、海兵隊が共同使用する極東最大の米軍基地。嘉手納町、沖縄市、北谷町にまたがり、面積は羽田空港の2倍の約1985ヘクタール。F15戦闘機を有する第44・67戦闘中隊を主力部隊にKC135空中給油機の第909空中給油機中隊などの部隊が駐留している。近年は国内外の米軍基地からF22戦闘機などの外来機飛来が相次ぎ、騒音は激化している。

滑走路に隣接する嘉手納町屋良では、70デシベル以上の騒音が毎年4万回前後発生する。2010年度の騒音回数は3万9204回と1999年の測定開始以来、6番目に多い

一方、普天間飛行場には第1海兵航空団第262、265中隊ヘリ中隊、重ヘリ中隊、軽攻撃ヘリ中隊などのヘリコプターとKC130空中給油機などの固定翼機が駐留する。常駐機のうち沖縄国際大学に墜落した機体と同型のCH53E大型ヘリが4機、CH46中型ヘリが23機でヘリ中に運用されている。

飛行場の滑走路の南側進入口に当たる宜野湾市上大謝名地区では、年間2〜3万回の騒音が観測されるなど、周辺の騒音被害は甚大だ。ヘリ

コプター特有の低周波音による騒音は、2010年7月の普天間爆音訴訟の高裁判決で心身の被害との因果関係が認められている。



嘉手納基地に常駐する主な航空機数

F-15C イーグル	戦闘機	54機
KC-135R ストラトタンカー	空中給油機	15機
RC-135	偵察機	1~2機
E-3B セントリー	空中早期警戒管制機	2機
C-130 ハーキュリーズ	輸送機	1機
MC-130 ハーキュリーズ	特殊作戦機	10機
HH-60 ベイブ・ホーク	救難機(ヘリ)	10機
C-12 ビーチクラフト	輸送機	2機
P-3C オライオン	対潜哨戒機	4~6機

普天間飛行場に常駐する主な航空機数

CH-53E スーパースタリオン	強襲作戦用ヘリ	4機
CH-46 シーナイト	強襲作戦用ヘリ	23機
AH-1J シーコブラ	攻撃ヘリ	5機
UH-1N	輸送ヘリ	4機
KC-130 ハーキュリーズ	空中給油機	12機
C-12	軽人員輸送機	2機
UC-35	軽人員輸送機	2機